

2 将来見通しと都市構造上の課題整理

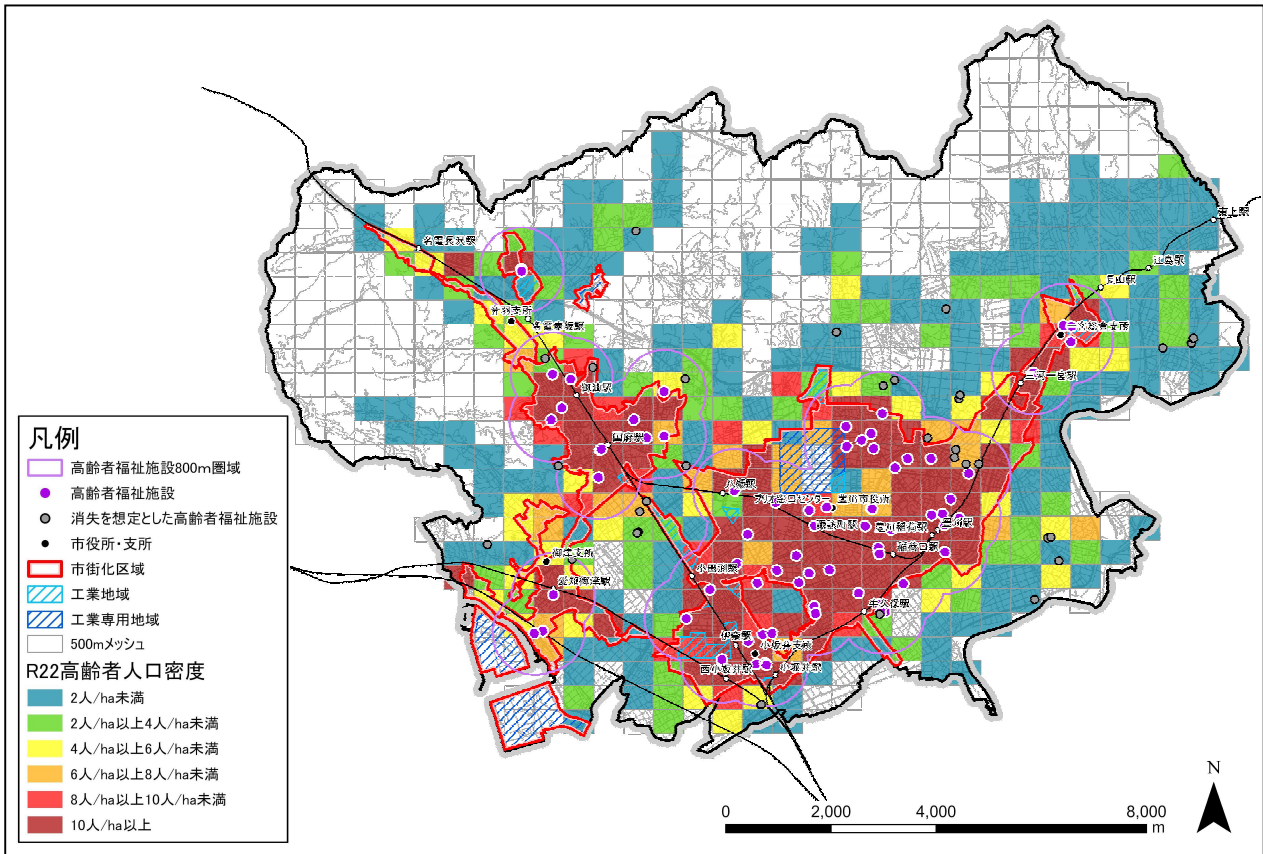


図 将来の高齢者福祉施設立地想定図（令和22年）

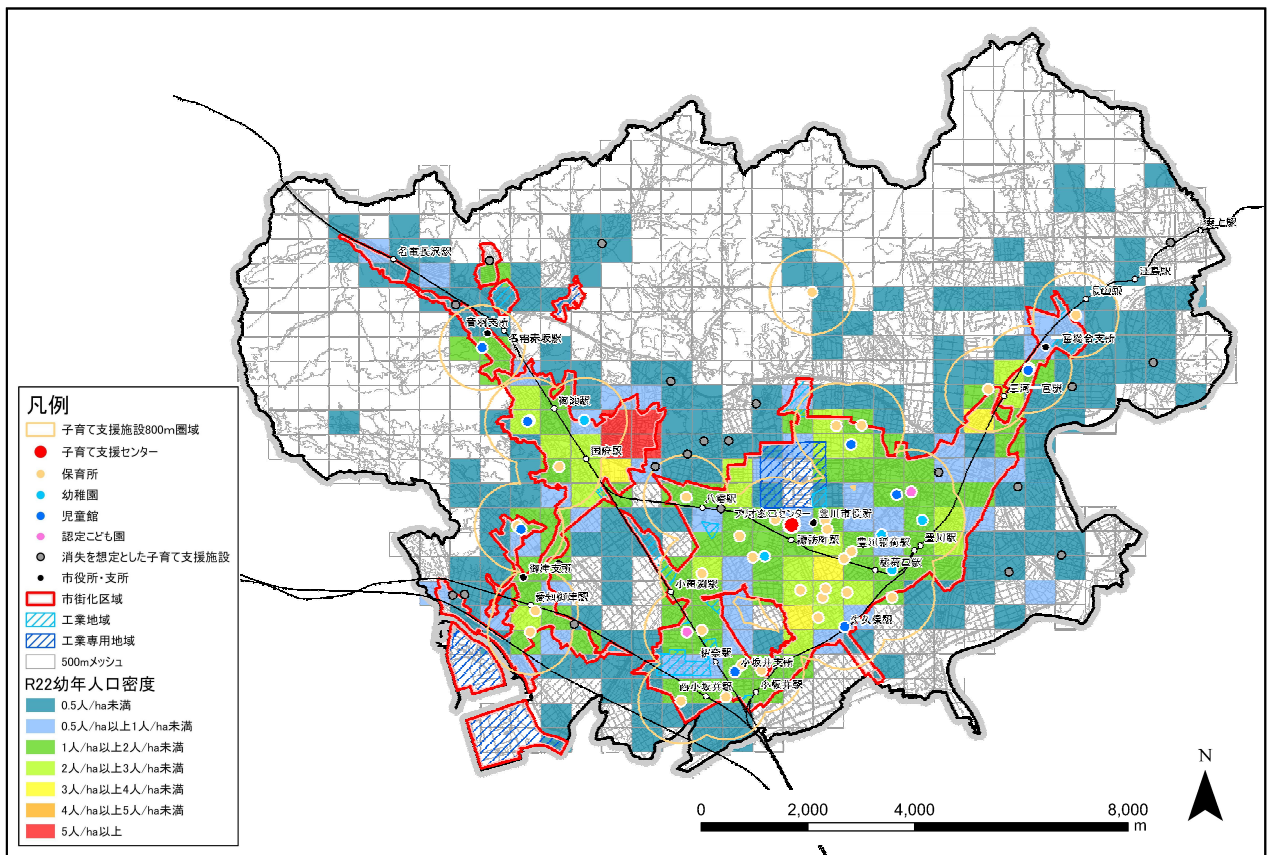


図 将来の子育て支援施設立地想定図（令和22年）

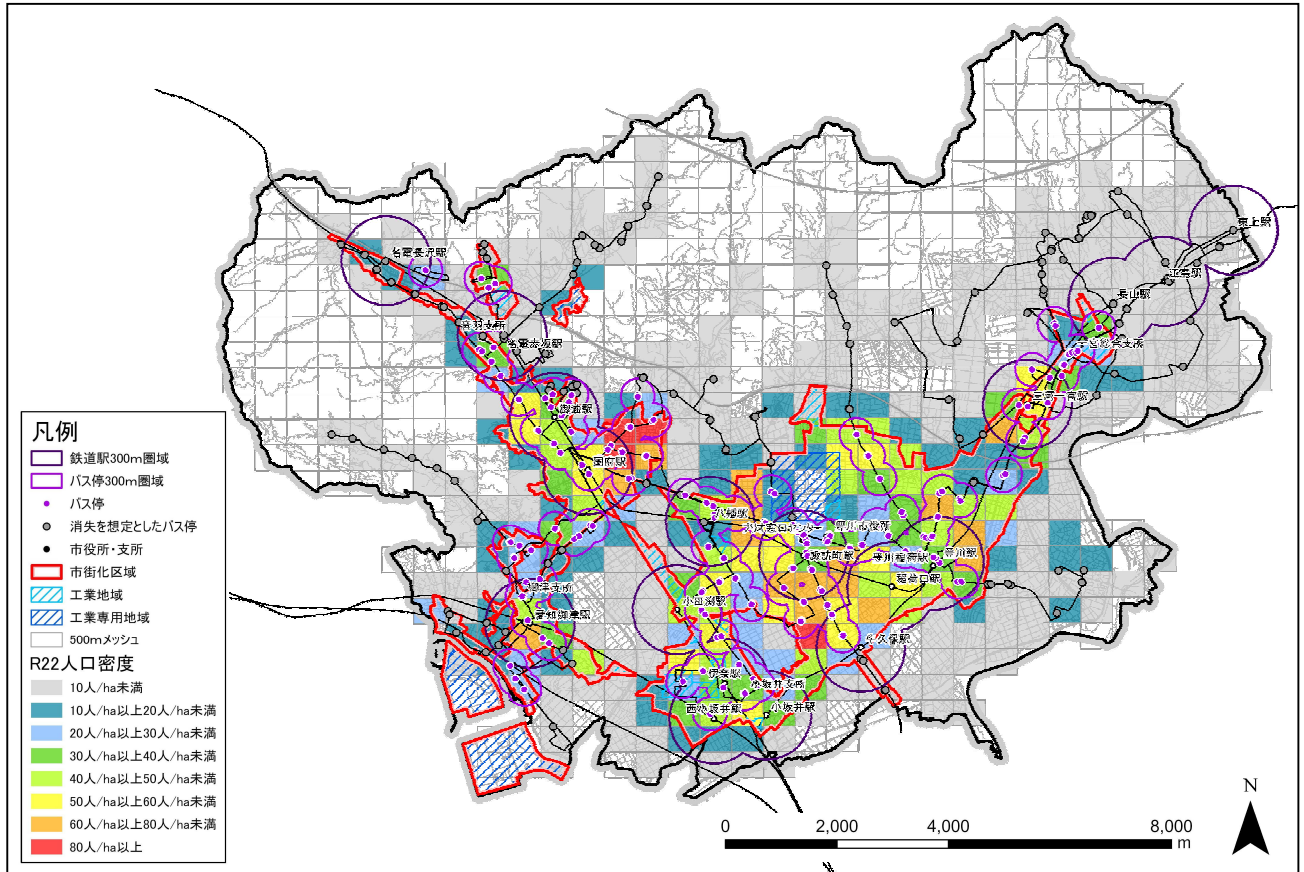


図 将来の公共交通（鉄道駅・バス停）立地想定図（令和 22 年）

※鉄道駅については、将来も維持すると仮定します。

2 将来見通しと都市構造上の課題整理

(2) 市全体の評価結果

市全体では、鉄道駅と商業施設を除き、人口カバー率が低下しています。

市街化区域においては、商業施設、高齢者福祉施設、保育所、医療施設の人口カバー率が90%を超えていますが、鉄道駅、バス停留所は約60%となっています。

市街化調整区域における人口カバー率は、全体的に市街化区域より低く、特に鉄道駅、バス停留所、商業施設が低くなっています。

令和22年の将来推計をみますと、市街化区域においてはあまり大きな変化はありませんが、市街化調整区域においては都市機能の人口カバー率が大きく低下し、住民の生活利便性の確保が課題となります。

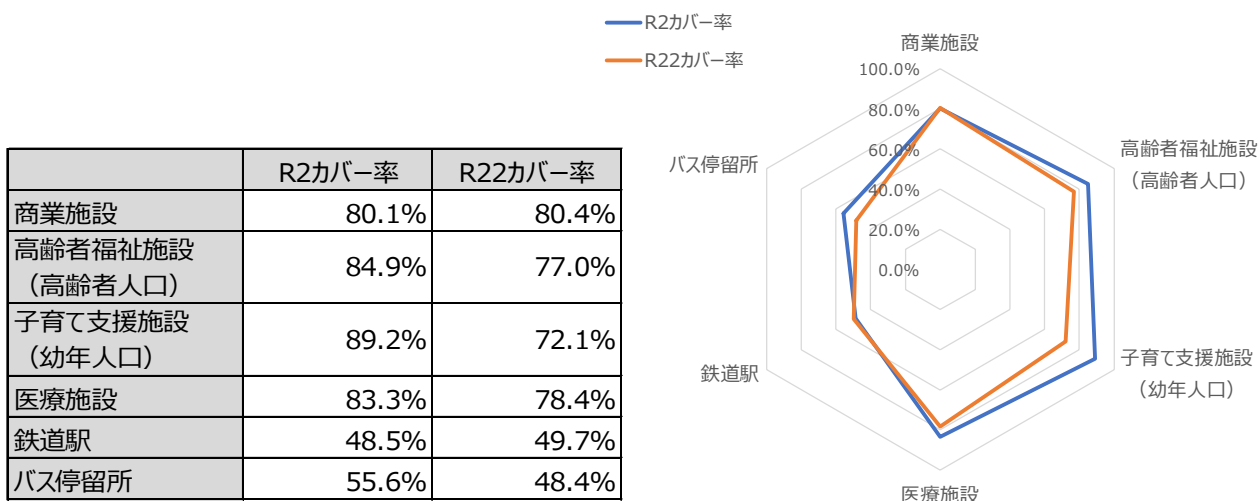


図 都市機能の人口カバー率の変化（市全体）

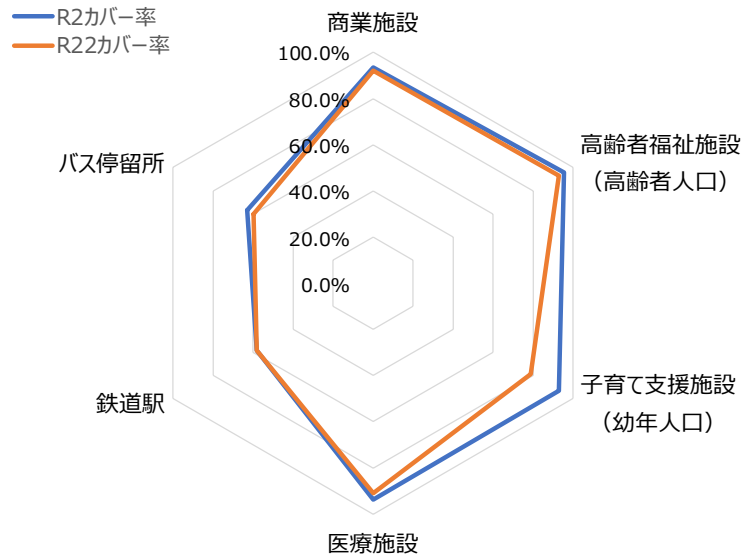


図 都市機能の人口カバー率の変化（市街化区域）

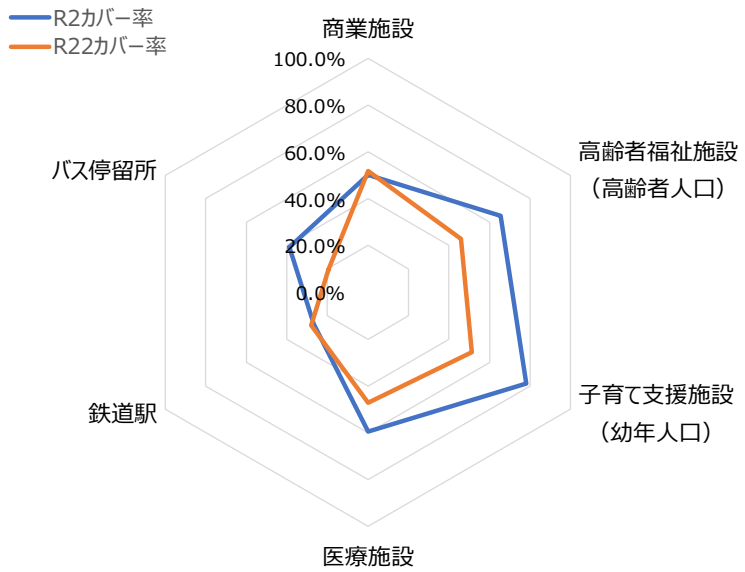


図 都市機能の人口カバー率の変化（市街化調整区域）

(3) 中学校区別の評価結果

地区別の生活利便性の評価を行うため、旧市町村等生活圏の1単位となっている中学校区別に評価を行います。

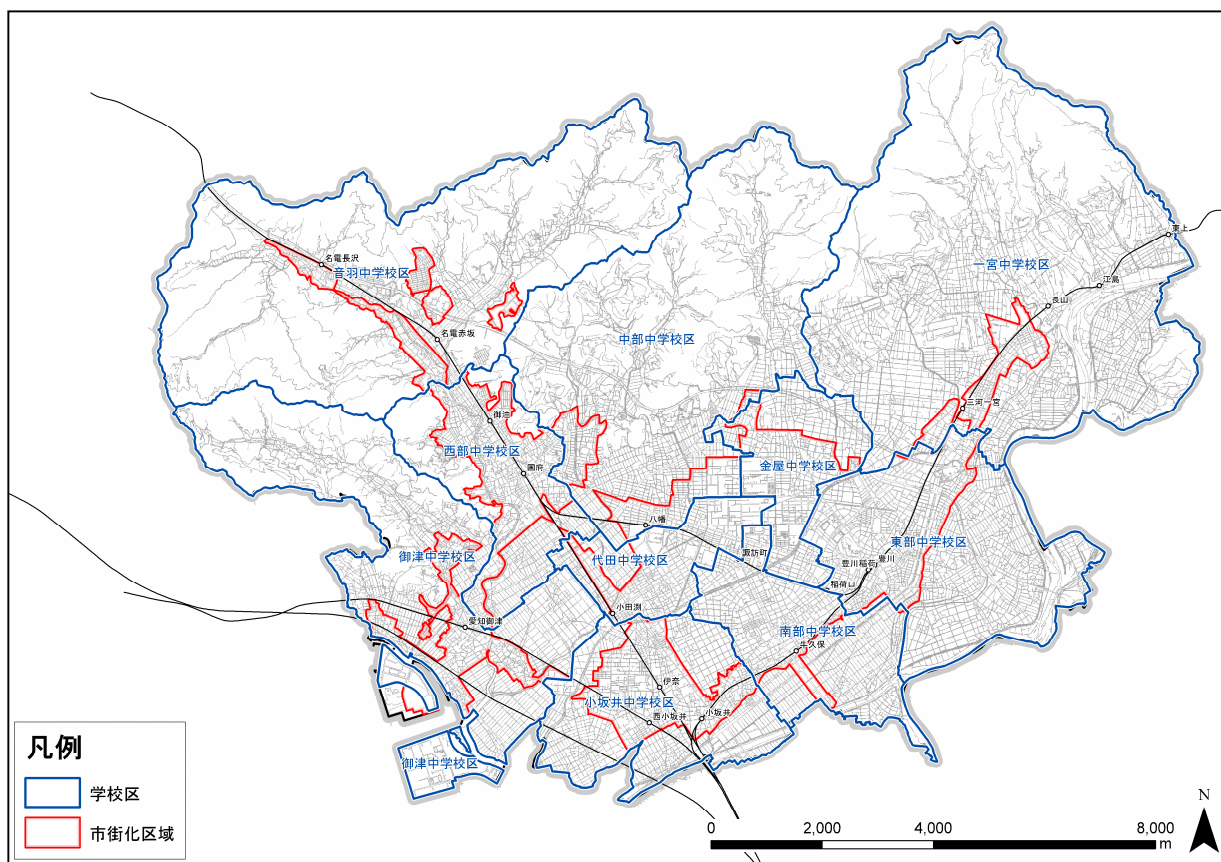


図 中学校区

各中学校区の市街化区域の人口カバー率を比較しますと、西部中学校区と一宮中学校区では、全ての項目で60%を上回っており、全ての都市機能が比較的バランスよくそろった地域といえます。その他の中学校区では、東部中学校区、南部中学校区、代田中学校区、金屋中学校区、小坂井中学校区では、公共交通の人口カバー率が低くなっています。また、御津中学校区や音羽中学校区では、鉄道と商業施設のカバー率が低くなっています。

市街化区域の将来見通しをみますと、南部中学校区、西部中学校区、代田中学校区、金屋中学校区では大きな人口カバー率の低下は予想されませんが、東部中学校区では子育て支援施設、中部中学校区では子育て支援施設、音羽中学校区では鉄道を除く全ての項目、一宮中学校区ではバス停留所、商業施設、高齢者福祉施設、御津中学校区ではバス停留所、医療施設、子育て支援施設、小坂井中学校区では医療施設で、大きく人口カバー率が低下する見通しとなっています。

市街化調整区域の人口カバー率は、すべての中学校区で市街化区域より低く、特にバス停留所や商業施設の人口カバー率が低くなっています。

市街化調整区域の将来見通しをみますと、金屋中学校区、小坂井中学校区では大きく人口カバー率は低下していませんが、その他の中学校区では、施設周辺の人口密度の低下により施設が消失し、カバー率が大きく低下する見通しとなっています。